

小規模多機能ホームあぶり 看護師
丹野 真由美

あぶり八尾太田 看護師
前島 順子

あぶり志紀 看護師
車谷 奈央



株式会社あぶりの介護事業にとつてなくてはならない職種の一つ、看護師。普段は健康管理や精神的なケア、薬の調節や病院への付き添いなど、利用者様の心身の健康をサポートしています。今回は、そんな看護師のお仕事について、小規模多機能ホームあぶりの丹野真由美さん、あぶり八尾太田に勤める前島順子さん、そして、あぶり志紀の車谷奈央さんの三名の看護師の皆さんに、話を伺います。

皆様のあぶりご入社の経緯について教えてください。

丹野 私は2008年(平成20年)に入社しました。子どもが幼稚園に入園したのを機に、仕事復帰しようと思っていたところ、あぶりで「看護師募集」の貼り紙を見つけたのです。自分の知識を生かして地域のお役に立てればと思い、応募しました。

前島 私は5年ほど前の入社になります。独身時代から看護師として働いていたのですが、結婚後はパートとしてクリニックなどで勤務していました。子どもが小学生のとき、習い事に通う道中にあぶりがありまして、「なんて綺麗な施設なんだろう」と気になっていました。中

学に入学したのを機に、本格的に看護師として復帰しようと派遣会社に登録したところ、求人募集の中にあぶりが入っているのを見つけ「これは行くしかない!」と、直接施設に電話をかけたんですよ。

車谷 私も紹介会社から情報をいただきました。以前は病院勤務でしたので、施設での看護はどういったものなのかから不安な部分もありましたが、ホームページや面接時に見せてもらった施設紹介動画から、とても笑顔の多い施設だなと感じたんです。利用者様に温かく接し、利用者様から「ありがとう」と言っていただけ。自分の思っていた、寄り添える看護ができるのではないかと思ひ、入社を決めました。

前島 ホームページは私も素敵だと思ひました! 自分が入所するならこんな施設がいいなと思ったので、迷いなく入社しましたね。

看護師ならではの苦労はどんなことがありますか?

丹野 医師が常駐していない分、判断をするときのプレッシャーは大きいものがありますよね。

前島 そうですね。認知症の方もいらっしゃるし、訴える症状に曖昧さが残るときもありますからね。

皆さんに安心してお任せいただけるような看護ができればと思っています。

看護師としての矜持とあぶりへの愛、そして何より利用者様や家族様の期待に応えたいとの想いを胸に奮闘する三名の方々。一人でも多くの方を笑顔にするため、今日も全力で看護に挑みます。

が、私は病院勤務のときから職種関係なく誰とでもコミュニケーションを取るように心がけていました。ほんの些細な会話でも構いませんので、気軽に話しかけてもらえる存在になりたいと思っています。

前島 お二人と同じく、職種関係なく自分から殻を破って、尊敬し合える存在になりたい。私にとって利用者様は自分の両親と同世代か、少し上の年齢の方たち。その分、家族様の立場で考えることもあります。皆

その分、できる限り利用者様の情報は集めておくようにしています。ケアワーカーさんや薬局の方とも密に連絡を取って、いつでも連携できる体制も整えています。

車谷 私はそういう場面で、とりあえず一人で判断しないよう心がけています。ほかの看護師に助言を求めたり、医師に連絡をしたり。特に施設長は看護師としての経験が豊富なので、迷ったときには相談をしています。

— それでは、今度はお仕事のやりがいについて教えてください。

丹野 やはり利用者様や家族様か



— 今後、あぶりの中でどんな存在になりたいか、それぞれお答えください。

丹野 皆さんに安心してもらうのはもちろん、なんでも相談してもらえるような存在になれたらなと思っています。

車谷 どうしても職員間では職種によって壁がしやすいものです

